

## I 研究の概要

### 1 研究の背景

#### (1) 本校の研究の流れ

本校では、平成19年度から「一人一人の教育的ニーズに応じた支援」を実現するために、特別支援教育の考え方を根底に据えた研究を行ってきた。さらに、平成22年度「体力向上実践校」の指定を受け、「体力向上モデル校」「熊本市教育委員会指定健康教育研究発表会」などの実践を重ね「白山の健康教育」を確立してきた。平成27・28・29年度は「全国健康づくり推進学校」として熊本市教育委員会より推薦され、全国表彰を受けるに至った。

平成29・30年度は、「熊本市教育委員会研究指定校」「ICT研究モデル校」を受け、白山の「健康づくり」のために、これまでの研究の成果を生かしながら教育活動をさらに工夫し、発展させていきたいと考えた。

#### (2) 子どもの実態

本校の子どもたちは、明るく元気で、学校行事や児童会活動などに、進んで参加しようとする意欲が高い。しかし、表現力の未熟さから周囲とうまく関われない子どもや、自己肯定感が持てずに自分の力を十分に発揮できていない子ども、与えられたことは真面目に取り組むが自主性に欠ける子ども等の姿も見られる。

体育的な面では、

- 運動への意欲が高く、外遊びをする子どもたちも多い。
- 領域による得意不得意や個人差があり、運動や遊びを創意・工夫する力が弱い。

保健的な面では、

- 健康への意識や知識が深まってきている。
- 生活習慣の乱れによる視力の低下や不用意なけがが多く見られる。

食育的な面では、

- 食への関心が高く、栄養やその働きなどの知識が深まってきている。
- 食に関する自分の課題が分かっていない子どもがいる。

ICT活用については、

- ICT機器を使用した授業に、高い興味を示す。
- タブレット等の操作については、導入されたばかりということもあり、個人差がある。

これまでの「健康づくり」の成果は表れているものの、課題解決に向け、学校の教育活動全般において、ICTを効果的に取り入れた授業づくりによって、人との関わりや伝え合いが生まれるような活動を仕組んだり、知識や技能を実践につなげたりしていく必要がある。

### 2 研究主題

## 進んで健康づくりに取り組む白山っ子の育成

～一人一人の教育的ニーズに応じた取組におけるICTの活用～

#### (1) 「進んで健康づくりに取り組む白山っ子」とは

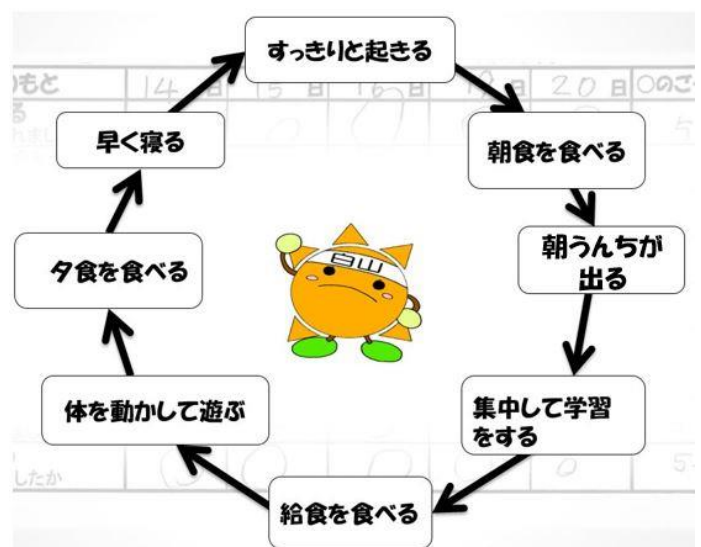
本校が考える「健康」は、以下の通りである。

心身の健やかな成長に関する知識や技能を身に付け、『食事・運動・睡眠』を軸とした望ましい生活習慣を実践しようとする状態。

また、その過程において、多様な視点から物事を考え、周りの人と協同しながら、自他の課題に気付き、主体的に判断し、課題を解決し、よりよい社会生活を送ろうとする状態。

この状態を生涯にわたって目指そうとする子ども。

本校では、右に示す8つの健康習慣を「げんきのもと」とし、このサークルを円滑に回していくことを健康づくりの指標として、全校で共有している。



## (2) 「一人一人の教育的ニーズに応じた取組」とは

特別支援教育の考え方を根底に据え、目の前の子どもの視点に立ち、一人一人を大切にする授業づくりや日常的な取組。

## (3) 「ICTの活用」とは

各教育活動の目標を達成するための手立てとして、ICT機器（パソコン、タブレット、電子黒板、書画カメラ、プロジェクター等）を使用していくこと。

### 3 研究の仮説

#### (1) 研究の仮説について

子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、ICTを効果的に活用した授業実践や日常化の取組を行えば、自他の心身に関心をもち、進んで健康づくりに取り組む子どもを育てることができるであろう。

#### (2) 研究の視点

3領域（体育・保健・食育）を中心に、4部会（体育・保健・食育・特別支援教育）の「授業づくり」と「日常化の取組」における『ICTの効果的な活用』について以下のように視点を定めた。

【視点1】子ども一人一人の特性や実態に応じた手立てとしての活用

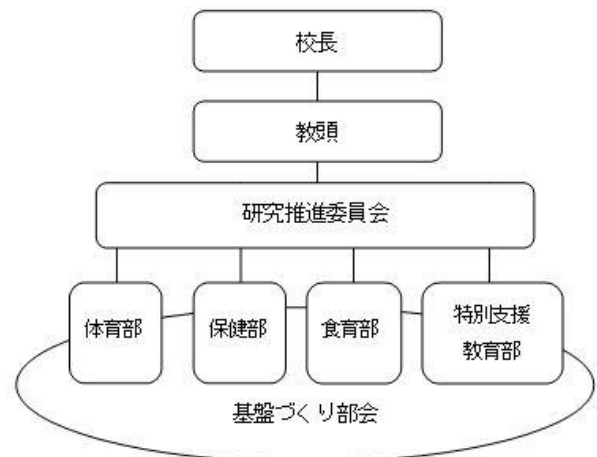
【視点2】子どもの関心・意欲を高め、主体的・対話的な学びにするための手立てとしての活用

【視点3】学びを定着させ、実践化につなげるための手立てとしての活用

### 4 研究の方法

#### (1) 研究組織

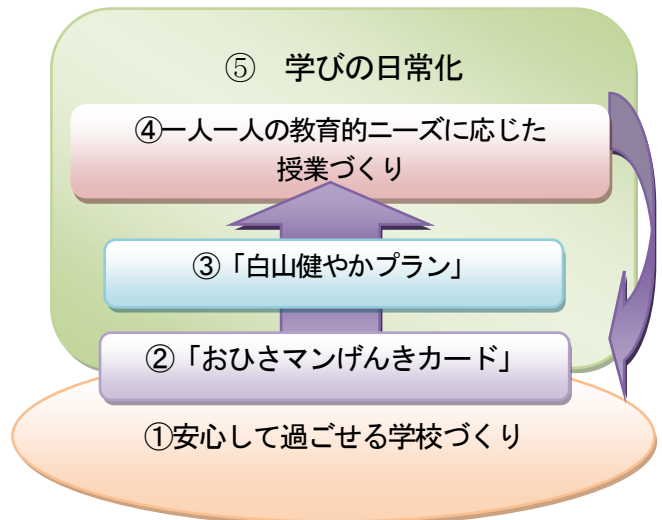
健康づくりを推進するために、安心して過ごせる学校づくり（(2)参照）に取り組む基盤づくり部会と4つの部会を編成した。その際、各部会・学年部の連携を図りやすく、職員の専門性を効果的に生かせるよう、保健主事、養護教諭、栄養教諭、体育主任を適所に配置した。各部会は、月2～3回行われる校内研修の時間の他に、授業研究会や行事に向けて、臨時的に話し合いや活動を行っている。



#### (2) 重点的取組

本校では、健康づくりを推進するための5つの重点的取組を設定し、相互の関連性を重視しながら、PDCAサイクルで継続・発展させていくようにしている。

まず、子どもが安心して活動に取り組むことができるように、心の教育・安全な環境づくり・ICT環境の整備など①安心して過ごせる学校づくりを基盤に置く。その中で、②健康生活チェック「おひさまげんきカード」による本校の健康観の共有と健康状態の分析を行う。さらに、その分析内容を生かし、健康づくりに係る4つの領域や教科等の内容を再構成した③健康教育年間指導計画「白山健やかプラン」を作成する。そして、③の計画に沿って体育・保健・食育を中心とした④一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりと授業改善を積み重ねる。さらに、④の授業で身に付けた知識や技能を実践につなげる⑤学びの日常化の取組を行う。



### (3) 各部会の取組

#### 【体育部会】

- ① 一人一人の教育的ニーズに応じたスモールステップで取り組む授業づくり
- ② 運動量を確保し、運動の特性に触れさせることができる授業づくり
- ③ 発問の工夫で思考を促す授業づくり
- ④ 運動を楽しみ、体力的課題の改善を図る場の設定（おひさまタイム等）
- ⑤ 運動に親しみやすい物的・人的環境の整備（授業や部活動における人材活用等）

#### 【保健部会】

- ① 一人一人が自分の心や体の健康を知ることができるための取組  
（おひさまげんきカード、ICT機器を利用した健康チェックシステムの活用、SCの活用、関係機関との連携等）
- ② 自分の心や体の健康について表現できる場の設定と、養護教諭や学校医等の専門性を生かした授業づくり
- ③ 学びが実践化、習慣化につながるような授業づくり
- ④ 健康について考え、意識を高めるための取組（学校保健委員会、保健に関する掲示等）

#### 【食育部会】

- ① 食に関する自分自身の課題を知り、一人一人に自分のめあてを持たせる取組
- ② 実態に即した教材の工夫や栄養教諭等の専門性を生かした授業づくり
- ③ 学びを深めるための学習形態を工夫した授業づくり
- ④ 食についての関心を高め、家庭との連携を図るための取組（食育に関する掲示、HP活用等）

#### 【特別支援教育部会】

- ① 一人一人の特性、興味、ニーズを踏まえた学習計画の作成
- ② 自分の健康に関心を持ち、人と関わりながら学ぶことができる授業づくり
- ③ 子どもたちが主体的にICT機器を活用できる場の設定
- ④ これまでの経験や学びが日常的な活動に生かされるための工夫

## 5 研究の実際

### (1) 健康生活チェック「おひさまげんきカード」の活用

子どもの実態把握と子ども自身が自分の健康を知るために、健康生活チェックを年4回実施している。このカードは、本校の考える健康観を具現化したものであり、健康づくりの指標でもある。次回までの目標や家庭からのコメント欄を設けたことで、健康生活への取組の継続と家庭との連携が図られるようになっている。分析結果は、授業づくり・学校保健委員会・校内掲示等様々な場面で活用している。今年度からは、これを電子化し、職員室前廊下に設置している。

### (2) 健康教育年間指導計画「白山健やかプラン」の作成

本校では、体育・保健・食育・安全の4領域に加え、チャレンジタイム、他教科・道徳との関連、発育測定時等の保健指導、給食の時間の指導内容、関連する学校行事の9項目からなる「健康教育年間指導計画『白山健やかプラン』」を学年毎に作成している。これは、健康教育の4領域の関連を意識して作成したもので、単に一つの領域だけで健康に関して学ぶのではなく、系統的かつ横断的に学びをつなぎ、連続させることを意図している。

げんきのほど	14日	15日	16日	19日	20日	〇のこつだい
あそび	○	○	○	○	○	5
あそびが楽しかったか	○	○	○	○	○	5
あそびが楽しかったか	○	○	○	○	○	5
あそびが楽しかったか	○	○	○	○	○	5
あそびが楽しかったか	○	○	○	○	○	5
あそびが楽しかったか	○	○	○	○	○	5
あそびが楽しかったか	○	○	○	○	○	5
あそびが楽しかったか	○	○	○	○	○	5
あそびが楽しかったか	○	○	○	○	○	5
あそびが楽しかったか	○	○	○	○	○	5

合計得点 32

⑤が多かった人...そのようしでがんばりましょう。  
 ②~④が多かった人...良かったところを褒めてあげましょう。  
 ①が多かった人...目標をきめてとりくみましょう。

保健者の方へ ご覧になりましたら、サインをお願いします。また、感想やお子さまのご家庭での様子等ご自由にお書きください。  
 (今年度は少ないので、かならず記入してください。学年も書くようにしてください。)

### (3) 一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくり

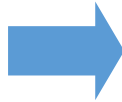
心身の健やかな成長に関する知識や技能を身に付け、それが実践化・日常化につながることを目指し、「白山健やかプラン」に基づいた授業研究を、保健・体育・食育を中心に行っている。各教科等の目標を達成するための「ICTの効果的な活用3つの視点」を取り入れながら授業づくりを進めた。

#### 体育 4年体育「マット運動」

◎ タブレットを活用し、お互いの試技を相互に撮影して映像を見合いながら課題をつかむことにより、友達との学び合いを生み、技をさらに磨くことができた。【視点3】



日常化



白山ギネスで、「ローリングキャッチ」にチャレンジ!

#### 保健 6年体育(保健)「病気の予防～生活習慣病の予防～」

◎ タブレットを活用し、自分の立場を明確にしたり、思考を可視化したりすることにより、主体的で対話的な学びを促すことができた。【視点2】



日常化



学校保健委員会で、「おひさまんげんきカード」のデータをもとに、自分たちの生活習慣を見直そう!

#### 食育 2年学活「大きくなあれ ～やさいをそだてよう～」

◎ 野菜の育て方についてこれからアドバイスをもらう「野菜の先生」を映像で紹介することにより、野菜づくりへの意欲を高めた。【視点2】



日常化



今日の給食には、みんなが育てた大根が入っています。「みんなが作った野菜だから、大根が苦手なぱっくんも頑張ってお食べよう!」

#### 特別支援教育 体育「のびのびパークにいこう」

◎ 活動の流れや体の動きについて、映像で示すことにより、安心して楽しく活動することができた。【視点1】





日常化



朝の「のびのび体育」では、体を動かしながら、「ビジョントレーニング」もやっています!

#### (4) 学びの日常化

授業等で得た健康に関する知識や技能を、日常生活での実践化につなげるために、「日常化の取組」を行っている。

【体育】	【保健】	【食育】
<ul style="list-style-type: none"> <li>○おひさまマンタイム ⇒始業直後に全校体育を行う。</li> <li>○白山ギネス ⇒学期1回 運動を楽しめる種目を実施し、記録を掲示する。</li> <li>○長縄週間 ⇒学級毎にめあてを立て取り組む。</li> <li>○環境整備 ⇒いつでも遊びの中で運動できるように用具等の整備を行う。</li> <li>○学級全員遊びの奨励</li> <li>○体力・運動能力等調査結果の活用</li> <li>○集会等での啓発活動</li> <li>○春季大運動会への取組</li> <li>○外部人材の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「おひさまげんきカード」の提案と活用・電子化の取組</li> <li>○発育測定時の保健指導</li> <li>○「トイレ美術館」の設置</li> <li>○「元気田広場」の活用</li> <li>○保健通信の発行</li> <li>○環境衛生活動</li> <li>○集会等での啓発</li> <li>○SCとの連携</li> <li>○地域健康イベント 「つながろう白山」への参加</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p>保健キャラクター 「元気田さん」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○給食の時間の指導</li> <li>○「ぱっくんのお作法教室」</li> <li>○給食献立ボードの活用</li> <li>○「ぱっくんストリート」の活用</li> <li>○「ぱっくん通信」の発行</li> <li>○HP「食育の部屋」の運営</li> <li>○食に関するクイズ放送</li> <li>○給食残食調べ片付け補助</li> <li>○給食週間の取組</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p>食育キャラクター 「ぱっくん」</p> </div>
<p><b>個別の保健・食育指導（小児生活肥満予防）</b> <b>「おひさまヘルシークラブ」</b></p>		
<p><b>学校保健委員会</b></p>		

## 6 成果と課題

### (1) 「一人一人の教育的ニーズに応じた健康づくりへの取組」について

- 健康診断や体力・運動能力等調査、「おひさまげんきカード」などによる実態把握をもとに、健康教育年間指導計画「白山健やかプラン」を作成し、それに沿った取組を進めてきたことで、子どもたちに系統的・横断的な学びを保障し、健康づくりに関する知識や意識を深めることができた。
- 白山小の「健康観」を子どもと教師が共有し、それを目指す授業づくりと学校保健委員会などの日常化の取組を積み重ねてきたことで、体育・保健・給食委員会だけでなく、児童会活動全体が活性化し、自主性が高まってきている。朝のボランティア活動には、毎回4分の1の子どもが参加している。
- 体育・保健・食育に関する実態は、学校生活だけでなく、家庭生活に起因することもあり、個人差が大きい。本人や保護者の思いや願いをくみ取り、家庭と連携していくことが今後さらに必要である。

### (2) 「健康づくりにおけるICTの効果的な活用」について

#### 【視点1】子ども一人一人の特性や実態に応じた手立てとしての活用

- 授業のねらいを示したり、学習内容を詳しく説明したりする際に活用することにより、子どもたちは安心して楽しく学習に取り組むことができた。また、言語で表現することが苦手な子にとって、タブレットの使用が、自分の考えを表現する手段の一つとなった。
- ICTの活用が個に応じた効果的な支援となるためには、子どもの特性や実態を丁寧に捉え、一人一人のめあてや教科等の目標にそった授業計画や資料の準備をする必要がある。

#### 【視点2】子どもの関心・意欲を高め、主体的・対話的な学びにするための手立てとしての活用

- 教材としてスライドや映像を作成したことにより、子どもたちの関心・意欲を高め、集中して学習に向かうようになった。また、電子黒板とタブレットを使い、自他の考えを比較したり、分類したりすることで、伝え合いが生まれ、主体的・対話的な学びにつながる効果的な活動となった。
- ICTの活用は、教師の発問や学習形態の工夫等と関係が深く、それぞれのICT機器の特性を理解し、活用方法を工夫改善していく必要がある。

#### 【視点3】学びを定着させ、実践化につなげるための手立てとしての活用

- 体育では、タブレットを使って自他の試技を適時、撮影・保存し、その場で子ども同士動きを確認したり、教師が授業後の評価に役立てたりすることは、ICTの日常的な活用としてたいへん効果的であった。
- 今後、授業で学んだ健康についての知識・技能等を日常生活での実践につなぐため、「おひさまげんきチェック」の電子化のようなICTの活用についての案を出し、ICT支援室等の支援を受けて取り組みたい。

今回の研究では、「授業における教師の効果的なICT活用」を中心に取り組んできた。今後は、「授業における子どもによるICT活用」や「日常的なICT活用」について実践を進めていきたい。

進んで健康づくりに取り組む子ども



体育に関する授業実践

日常的な取組



基盤づくり (学級づくり・ICT環境の整備・心の教育)

安心できる学校づくり (安全・心のケア)

『白山健やかプラン』

一人一人の教育的ニーズ

子どもの実態 保護者・地域の願い 本校の実践の積み重ね 教育の今日的課題

白山小「健康づくり」構想図